



農家として大切にしていることは？

一番は地域のコミュニティを大切にすることです。自分の野菜だけが売ればよいという気持ちでは農業は上手くいきません。

野菜を育てるのも、売るのも地域内でのパートナーが必要です。そのために地域の方々とコミュニケーションを取り、良い関係を築いていくことがとても大切です。

埼玉農業大賞を受賞 地域貢献部門 大賞

革新的な農業経営に取り組む農業者や地域農業の振興や活性化に優れた功績をあげた農業を表彰するものです。

愛澤さんはハウレンソウの周年施設栽培という独自の農業スタイルを確立し、地域に取り入れたことや、農地を積極的に借り受け規模拡大し、地域の遊休農地解消に貢献したこと、新規就農者の指導を行い若手農業者の育成に寄与したことなどが評価され、受賞されました。おめでとうございます。

各メディアでも注目され、「埼玉新聞」、「テレビ埼玉」などでも取り上げられました。



11月24日、知事公館埼玉農業大賞表彰式（知事公館）



愛澤健雄さん プロフィール
福島県浪江町出身。現在は嵐山町古里地内で農業を営む。ハウレンソウの周年施設栽培など独自の農業スタイルを確立し、後進の農家育成にも意欲的に取り組んでいる。

愛澤健雄さんは福島県浪江町で農業を営んでいましたが、平成23年の東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で嵐山町に避難してきた方です。

家族で嵐山町に移り住み、ゼロから農業を再開し、今年度「埼玉農業大賞」を受賞されました。

町の新規就農塾「嵐山町農業担い手育成嵐丸塾」の指導者としても活躍するなど、今や地域の農業のリーダー的役割を果たす愛澤さんをご紹介します。

なぜ嵐山町でハウレンソウを？

福島県から避難した後、営農再開を目指し、流通性に優れた農地を探す中、縁があり嵐山町の農地を紹介していただきました。

ハウレンソウは浪江町でも中心にやっていたし、葉物野菜の代表格です。

また育てるのも他の野菜と比べて手軽で、害虫も付きにくく、収穫スピードも早いという利点があります。

